

いのちを支える地域づくり計画 2025～板橋区自殺予防対策～（仮称）（素案）
 に対するパブリックコメントの実施結果（案）

1 実施概要

募集期間	令和4年12月6日（火）～12月23日（金）
周知方法	<ul style="list-style-type: none"> ・区ホームページへの掲載 ・広報いたばしへの掲載（11月26日号） ・区公式 Twitter での配信 ・区立施設等への配架 <p>【配架場所】 健康推進課、区政資料室、区立図書館（全11館）、地域センター（全18か所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「パブリックコメント等区民参加情報配信制度」登録者への情報配信（登録者数：233人） ・庁舎内の広告付電子掲示板での周知（12月1日～12月31日）
募集対象	<ul style="list-style-type: none"> ・区内在住・在勤・在学の方 ・区内に事業所・事務所を有する個人・法人・各種団体 ・区内で活動する個人・法人・各種団体
提出方法	<ul style="list-style-type: none"> ・直接持参 ・郵便 ・ファクシミリ ・電子メール ・Web回答
公表資料	いのちを支える地域づくり計画 2025～板橋区自殺予防対策～（仮称）（素案）
意見数等	<p>意見提出数：9件 提出人数：3名 提出方法別人数：直接持参0人、郵便1人、ファクシミリ1人、電子メール0人、Web回答1人</p>

2 パブリックコメントと区の考え方

次ページ以降のとおり

「いのちを支える地域づくり計画 2025～板橋区自殺予防対策～」(仮称) (素案) に対するパブリックコメントと区の考え方 (案)

◎ 募集期間：令和4年12月6日(火)～12月23日(金)【18日間】

◎ 件数：9件・3人(郵送1人、ファクシミリ1人、Web提出1人)

No.	項目	意見の概要	区の考え方
1	第2章 計画の背景	<p>施策の達成率は高水準だが、区内の自殺者数及び自殺死亡率は悪化傾向である。</p> <p>この要因はどこにあり、また行政はどのように分析しているのか。</p> <p>PDCA サイクルのうち Check の部分について、区民に公開していただきたい。</p>	<p>ご指摘のとおり、各施策の達成率は高水準ですが、自殺者数や自殺死亡率は国と同様に増加傾向にあり、施策達成率と自殺者数の推移に乖離が生じています。</p> <p>自殺者数増加の要因については新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きいと国だけでなく区も考えていますが、因果関係を立証するデータが無いというのが実情です。</p> <p>令和2年度及び令和3年度の進捗につきましては、2か年分をまとめた上で、令和4年度第1回自殺対策地域協議会及び令和4年第3回定例会の健康福祉委員会で報告を行った上で資料を公開しているところですが、区は今後も国や有識者などの意見を踏まえながら、チェックにあたる分析・検討を続けていきます。</p>
2	第3章 板橋区いのちを支える地域づくり計画 2022 の評価報告	<p>「いのちを支える地域づくり計画 2022」のパブリックコメントに対する回答内で「年1回進捗状況を把握・評価する予定」としているが、これまでに「いつ」「どこで」「どのような内容で」実施したのか。</p>	<p>当初、計画の進捗を年1回把握・評価するとしていましたが、当時の所管部署である予防対策課が新型コロナウイルス感染症拡大に対応することを喫緊の課題として優先させていただいたため、進捗状況の把握評価の時期をずらさざるをえず、2か年分を合わせて実施しました。</p> <p>報告につきましては、令和4年度第1回自殺対策地域協議会及び令和4年第3回定例会の健康福祉委員会で、施策別事業達成度指標別事業数について行っています。</p>

No.	項目	意見の概要	区の方考え方
3	第4章 いのちを支える地域づくり計画2025	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により様々な行動が制限されたことで、不安が増大している人たちがいる。</p> <p>そのような人たちに対して、身近にいる人が気づくということが非常に重要である。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>当計画を着実に実行することで、身近な人が「気づく」ことができるような地域づくりをめざしていきます。</p>
4	第4章 いのちを支える地域づくり計画2025	<p>自殺予防のカギとなるのは、孤立に陥らせないことである。孤独・孤立化を防ぐため、住民の属性を問わず、地域住民が日ごろから気軽に立ち寄れる「居場所」を行政が運営すべきである。</p> <p>自殺対策の根幹に包括的な施策として「地域コミュニティの形成」を据え、そこから派生する形でそれぞれの施策を実施する方が有効ではないか。</p>	<p>ご指摘のとおり、自殺予防・対策では、しがらみのない、適度な距離感を持った「居場所づくり」は重要ですが、同時に、自治体だけでなく、様々な主体と協働して、広く「居場所」を設けることも必要不可欠です。</p> <p>うつ病・躁うつ病家族教室を実施したり、来年度より「ひきこもり相談支援事業」「ひきこもり居場所づくり」を実施予定ですが、区だけでなく様々な団体が居場所を設けているため、周知を行っていきます。</p> <p>また、「居場所」を作る方法の一例として挙げられる「趣味」に関するコラムを計画に追加しました。</p>
5	第4章 いのちを支える地域づくり計画2025	<p>自殺の危険因子は様々なものがあるが、中でも「うつ状態」などの精神疾患は非常に多い。「うつ状態」と気づくには、日ごろの暮らしの中でその人とコミュニケーションができており、かつその人を良く知る主体(住民や事業所内)ではないか。</p> <p>このことから、住民同士で気軽に利用でき、コミュニケーションがとれるような居場所が必要だと考えるが、板橋区内にはどこにそのような場所があるのか。</p>	<p>一部抜粋ですが、以下のような事業があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張ゲートキーパー研修 ・子どもの居場所づくり支援事業 ・中高生・若者支援スペース「i-youth」 ・ウェルネス活動推進団体支援事業 <p>また、間接的ではありますが、区ホームページやこころの体温計などといったツールを通して相談窓口などを案内することで、人と触れ合う機会、人と人とのつながりを構築するキッカケとなることを促していきます。</p>
6	第4章 いのちを支える地域づくり計画2025	<p>自殺対策で非常に重要なことは「人とのつながり」と記載しているが、具体的にどの事業が「人とのつながり」を構築していくのか。</p>	<p>一部抜粋ですが、以下のような事業があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張ゲートキーパー研修 ・子どもの居場所づくり支援事業 ・中高生・若者支援スペース「i-youth」 ・ウェルネス活動推進団体支援事業 <p>また、間接的ではありますが、区ホームページやこころの体温計などといったツールを通して相談窓口などを案内することで、人と触れ合う機会、人と人とのつながりを構築するキッカケとなることを促していきます。</p>

No.	項目	意見の概要	区の考え方
7	第4章 いのちを支える地域づくり計画 2025	<p>自殺対策の中で一番重要なのは、様々な主体に「ゲートキーパー」を理解してもらい、生かしてもらうことであると考え。そのために、以下の取組をしていただきたい。</p> <p>①区内事業所・区民向けに区独自の「ゲートキーパー手帳」を作成し、町会・自治会や民生・児童委員の協力を得ながら、配付・周知・広報すること。</p> <p>②「職員用」ゲートキーパー手帳を作成し、各部署・職員に配布・備付閲覧できるようにして、関係職員の研修時や業務時に実践し活かしていただきたい。</p> <p>自殺予防は以下2点の実践が大事だと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近に支える人がいると伝わること ・聴く姿勢と寄り添う心を持つこと <p>これはゲートキーパーの役割そのものである。行政関係職員、支援機関職員そして一人でも多くの区民が役割を理解し、実践することが大事である。</p>	<p>ご指摘のとおり、「ゲートキーパー」は自殺対策において必要不可欠ですので、厚生労働省作成のゲートキーパー手帳を活用して、以下のような取組を行っていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区のイベントや企画展示の際に、様々な場所で配布する。 ・区職員の研修においてゲートキーパー手帳を配布し、ゲートキーパーに関する説明を行うことで、「自分もゲートキーパーの一員である」という意識を醸成する。 <p>主体を問わず、より多くの方にゲートキーパーを知っていただくとともに聴く姿勢と寄り添う心を持っていただけて「支える人」になっていただけるように、区では様々な取組を引き続き行っていきます。</p> <p>また、P54「つながるネットワークのイメージ」にご指摘いただいた点を追記しました。</p>
8	第4章 いのちを支える地域づくり計画 2025	<p>2025 計画についても、少なくとも年1回は PDCA サイクルを実施し、都度公開していただきたい。特に Check を都度行うことで、対策の課題が見いだせるのではないかと。</p>	<p>年1回、量的・質的な観点から進捗を確認し、公開します。</p>
9	その他ご意見など	<p>イベントやシティプロモーションが高齢者向けや親子向けなどに集中しており、他の世代は除外されているように感じる。</p> <p>特定の世代や属性の人だけを重んじるメッセージをこれだけ露骨に発せられると、そこに含まれない層は疎外感を感じ、「誰一人取り残さない」という理念と矛盾するとともに、「住みたくなるまち」という理念とはかけ離れているように思う。</p>	<p>ご意見として承りました。</p> <p>プロモーション部門にも共有させていただきます。</p>